

令和7年度 国語科 授業改善推進プラン

台東区立駒形中学校

	児童・生徒の実態を踏まえた課題	育成を目指す資質・能力	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
第1学年	漢字の読みや書き（言葉の特徴や使い方に関する事項）目的や意図に応じて自分の考えが伝わるように文章を書くことに課題が見られる。	- 漢字学習を通して、文章で出てくる漢字を読むことができたり、作文等では適切に漢字を書いたりすることができる。また、分からない漢字があった場合は自分で辞書等を使って調べることができる。 - 書き始める前に、自分の伝えたいことや文章の流れを図やメモに整理させ、意図を明確にすることができる。	- 朝学習・駒中スタディでは繰り返し漢字の問題演習することで知識の定着を図る。また、授業では漢字に関するクイズやゲームを取り入れ、漢字学習への意欲を高める。 - 授業では短い文章（50字程度）を書き、文章を互いに読み合い、「伝わったこと」「わかりにくかった点」をフィードバックし合うことで、自分の考えが伝わるような文章表現ができるようにする。
第2学年	漢字の読みや書き（言葉の特徴や使い方に関する事項）と自分の考えが伝わるように文章を書く問題、読み手の立場に立って、文章を整えるに課題が見られる。	- 漢字学習を通して、文章で出てくる漢字を読むことができたり、作文等では適切に漢字を書いたりすることができる。また、分からない漢字があった場合は自分で辞書等を使って調べることができる。 「はじめ・なか・おわり」や「意見・理由・結論」など、構成の型を活用して論理的に文章の組み立てをすることができる。	- 朝学習・駒スタでは繰り返し漢字の問題演習することで知識の定着を図る。また、学力推進ティーチャーと教科担任が漢字の字形を確認することで誤った字形で漢字を覚えないように指導体制を整える。 - 授業では誰に向けて（相手意識）何を書くのか（目的意識）を設定し、100字程度の文章を作文することで、読者に応じた言葉遣いや説明の仕方を工夫する。
第3学年	「言葉の特徴や使い方に関する事項」「記述式問題」の2つに課題がある。また、日々の授業内でも、記述式問題に対して抵抗感を持つ生徒が散見され、課題を感じる。	漢字の読み書きを中心とした言葉の使い方に関する能力や、記述式問題に対して自分の考えをまとめ、表現できる。	朝の漢字学習や日々の授業内での言語事項の学習、分からない言葉は辞書を使って調べるなどの活動を通して言語能力の伸長を図る。また、200字作文などの記述問題に対する活動を増やし、苦手意識を無くす。その際に、記述式問題に求められている条件を意識するよう声掛けを行っていく。

